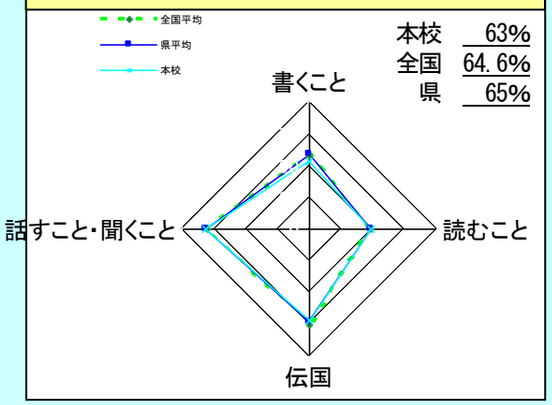
別紙２

令和３年度

指導方法等の改善計画について　〔国語科〕

呉市立広中央　　中学校

全国学力・学習状況調査　本年度正答率



本校	63%
全国	64.6%
県	65%

重点課題

【課題１】　書いた文章を読み返し，語句や文の使い方，段落相互の関係などに注意して書くことができる。（意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する）（設問２（1））（正答率 18．5%）

具体例の元となる意見（抽象表現）がどこにあるか分からずに誤答している生徒が 43．7%

【課題２】　相手や場に応じて敬語を適切に使うことができる。（「行く」を適切な敬語に書き直し，その敬語の種類として適切なものを選択する）（設問４（3））（正答率 37．1%）

相手や場に応じた敬語の種類を答えることはできているが，「行く」を適切な敬語に書き直すことに課題がある生徒（20．5%）

重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）

【課題１】　批評文を書くことを通して文章の論の展開の仕方を学ぶ場面を設定する。対象となるものをしっかりと観察・分析し一貫した観点で対象を批評することで，書き手として文章を構成させることを指導する。また，説明的文章を読むことを通して、抽象と具体の概念の習得を目指す。文章は事例とまとめの往還で組み立てられており，どの部分が具体で，どの部分が抽象なのかを具体的に考える活動を取り入れる。

【課題２】　敬語を適切な場面で使用する場面を設定する。例えば、講師としてお世話になった方に対してお礼の手紙を書くよう指導する。その際，相手に失礼のないように，尊敬語と謙譲語の使い分けに注意して取り組むよう促す。

※　小中一貫した取組は，広中央中学校区で育成したい資質・能力を意識した授業作りをさらに進めていく。主体的・対話的で深い学びの実現に向けた手立てとして，課題発見・解決学習と体験活動に取り組む。国語科では，段落の要旨や段落相互の関係に気を付けて，文章から必要な情報を読み取るスキルを身に付けさせるとともに，新聞など長文を読む機会を設定する。

【課題１】	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
学年・方法		３年・単元テスト					
目標値		７０%					
実施後数値		９０．０%					

【課題２】	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
学年・方法				３年・単元テスト			
目標値				７０%			
実施後数値				６５。０%			

来年度に向けて

段落の相互関係を意識させる指導を継続して行っていく。また，相手や場に応じた敬語を使う場を意図的に設定し，敬語に触れる機会を増やしていく。

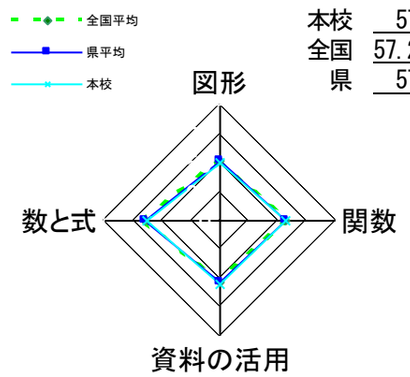
別紙２

令和３年度

指導方法等の改善計画について　〔数学科〕

呉市立広中央　　中学校

全国学力・学習状況調査　本年度正答率



本校	57%
全国	57.2%
県	57%

重点課題

【課題１】　数学的な結果を事象に即して解釈し，事柄の特徴を数学的に説明することができる。（四角で４つの数を囲むとき，四角で囲んだ４つの数の和がどの位置にある２つの数の和の２倍であるかを説明する。）（設問６（３））数と式（平均正答率２３．８％）

文字式が表す数量を，問題文に応じたことばで表現できていない生徒が９．３％。

【課題２】　ある条件の下で，いつでも成り立つ図形の性質を見いだし，それを数学的に表現することができる。（∠ＡＲＧや∠ＡＳＧの大きさについていつでもいえることを書く。）（設問９（３））図形（平均正答率２５．８％）

必要な情報を選び，図形の性質を見いだせず問題文に書かれている事柄を式に表している生徒が９．９％。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）

【課題１】　課題の中で，文字式を使って表現する場合などは，何の数量を文字で表し，その式をことばで表現する活動や説明させる場面を増やす。ｘやｙとして求めた答えが何を意味しているか確認するよう指導する。

【課題２】　わかっていることを整理して新たな法則を見つけたり，説明する機会を増やす。また，具体的な数を代入してその事柄が成り立ったとしても，いつも成り立つということとは意味が異なることを指導する。

※　小中一貫した取組は，広中央中学校区で育成したい資質・能力を意識した授業作りをさらに進めていく。主体的・対話的で深い学びの実現に向けた手立てとして，課題発見・解決学習と体験活動に取り組む。数学科では，ＩＣＴを活用し，図形の定義を言葉だけではなく図形と結びつけ，多面的・多角的にとらえ説明することができるようにさせる。

【課題１】	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
学年・方法			３年・期末試験				
目標値			５０％				
実施後数値			７６．１％				

【課題２】	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
学年・方法					３年・学年末試験		
目標値					５０％		
実施後数値					６８．７％		

来年度に向けて

数量の関係について，表や図，ことばの式で整理できるようワークシートなどを工夫する。また，図からわかることや気付いたことを整理する活動を継続して行っていく。

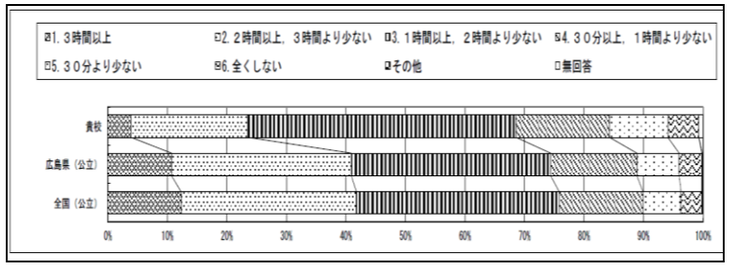
別紙２

令和３年度

質問紙調査　（全国学力・学習状況調査：生徒質問紙調査）（児童生徒学習意識等調査：生徒質問紙調査）

（１）生活・学習

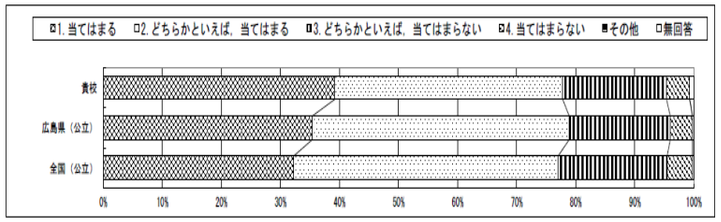
普段１日あたりどのくらいの時間，勉強をしますか。



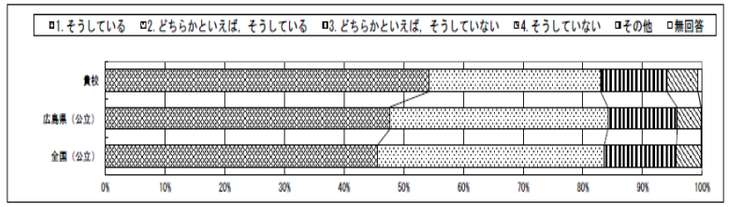
	生徒の回答についての課題（現状値）	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施後数値
全国・学習意識等	質問番号（18）の学校の授業時間以外に，「普段１日あたりどのくらいの時間，勉強をしますか。」の問いに対して２時間以上が全国平均は41.8%，県平均が40.9%に対して，本校は23.5%と低い。塾を含めた家庭学習時間が少ないことは大きな課題である。	まず，中学３年生は受験生ということもあり，全国の約４割の生徒が塾の時間を含めて１日２時間は家庭学習をしている現実を知る必要がある。 その上で，課題以外にも自主的に１・２年次の復習と当日習った事項の復習を確実に行うよう指導していく。	３年	42%	生活アンケート	12月	51.1%

（２）教科

国語の授業では，目的に応じて文章を読み，内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりしていますか。



数学の授業で公式やきまりを習うとき，そのわけを理解するようにしていますか



		生徒の回答についての課題（現状値）	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施後数値
国語	全国・学習意識等	質問番号（50）の国語の授業では，「目的に応じて文章を読み，内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりしていますか。」の問いに対して，肯定的評価が全国平均の割合は77%，県の割合は78.9%に対して，本校の割合は77.8%である。	授業で何を目的にして文章を読むのか明確にする。そして，読み取った文章から友達と交流する機会を設け，考えを広げる活動を取り入れる。また，注目する視点を示して，見方を広げたり考えを深めたりする活動を設定する。	３年	79%	生活アンケート	12月	96.0%
数学	全国・学習意識等	質問番号（58）の数学の授業で「公式やきまりを習うとき，そのわけを理解するようにしていますか。」の問いに対する肯定的評価が，全国平均の割合は83.5%，県の割合は84.1%であるのに対し，本校の割合は83%である。	授業では結果や答えだけでなく「どのようにして」や「なぜ」などアプローチや根拠を記述しながら流れが見えるようにノートをとるよう指導する。	３年	85%	生活アンケート	12月	86.8%